

## 夏バテ防止! 豚肉の野菜巻き 〜トマト香味だれ〜

ビタミンB1が豊富な豚肉は疲労回復に効果的。そこに抗酸化作用のあるトマト、香りの良い大葉を合わせ、ポン酢でさっぱりと仕上げました。電子レンジ調理ならキッチンに熱がこもらず、食材の栄養もまるごと摂取できます。

### 材料（2人分）

- 〈肉巻き〉  
 ●豚ロース肉（しゃぶしゃぶ用）…150g ●キャベツ…2枚  
 ●にんじん…1/4本 ●酒…大さじ1 ●塩…少々  
 〈トマト香味だれ〉  
 ●トマト…1個 ●大葉…6枚 ●ポン酢しょうゆ…大さじ2  
 ●こま油…小さじ1 ●はちみつ…小さじ1/2 ●白ごま…少量

### 作り方

- ①キャベツは大きめのざく切りにし、電子レンジ（600W 約1分）で加熱しやわらかくする
- ② にんじんを薄めの短冊切りにする
- ③ 豚肉を2〜3枚広げ塩を振り、キャベツ・にんじんをのせて巻く
- ④ 耐熱皿に並べ、酒をふる
- ⑤ ふんわりラップをして電子レンジ（600W 約4〜5分）で加熱しそのまま2分放置し蒸らす  
※豚肉に火が通ったか確認する
- ⑥（たれ作り）トマトは角切り、大葉は細切りにし、調味料と混ぜる
- ⑦ 食べやすく切り、たれをかける

### およその栄養量（1人分）

エネルギー220kcal／たんぱく質16g／脂質13g／炭水化物9g／食塩相当量1.3g



やさしさを、手から手へ。

# てとて

ご自由にお持ちください

2026.07 vol.

# 5

## 特集

知多半島総合医療センター ロボット手術  
 知多半島りんくう病院 リハビリテーション科  
 新ドクターカー導入のご報告



左から臨床工学技士、看護師、外科医師、麻酔科医師、看護師

知多半島総合医療センター  
 歯科口腔外科  
 統括部長 歯科医師  
 佐藤 春樹

リレー形式でスタッフを紹介します！

知多半島りんくう病院  
 感染症対策室  
 係長 感染管理認定看護師  
 谷川 暁子

口腔・顎・顔面に生じるさまざまな疾患を専門的に診察し、主に外科的な治療を行っています。当院で全身麻酔による手術やがん化学療法を受けられる患者さんに対する口腔の衛生管理にも取り組んでいます。  
 また患者サポートセンター部長として、地域の医療機関と連携し、患者さんが安心して適切な医療を受けられるよう支援しています。

患者さんと職員の感染管理を徹底するため、院内ラウンドを週に1回以上行い、感染対策の実施状況や職員の職場安全を確認しています。当院には特定感染症病床があるため、県や国の感染状況を常に確認し、いつでも稼働できるよう準備しています。  
 また県や検疫所と連携し、定期的に訓練を実施しています。

## 座右の銘 「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」

今この瞬間を大切に、誠実に向き合うことを心がけています。



## 座右の銘 「自分の機嫌は自分でとる」

落ち込むこともありますが、自分なりのリフレッシュ方法で自分の機嫌を保つようにしています。

## ルーティーン

毎朝、愛猫「まめ」の世話をしながら心を整えるようにしています。

毎朝占いをチェックし、気に入ったものを覚えて一日を過ごしています。



## 夏休み！中学生職業体験

【日時】8月22日（土）【場所】知多半島総合医療センター  
 【詳細】ホームページをご覧ください。事前予約制



CHECK

・Instagram  
 ・YouTube





# 知多半島のがん診療最前線

知多半島総合医療センターは、知多半島の「地域がん診療連携拠点病院」として、常に最先端の医療技術を追求め、患者さん一人ひとりに最適な、そして何よりも「患者さんのためになる」医療を提供することが使命だと考えています。

そのような医療を提供する一つの方法として、私たちは2020年にロボット手術“da Vinci Xi Surgical System”(ダヴィンチ)を導入しました。

ロボット手術は、医師が操作するロボットアームが、人間の手では届きにくい体内の深部や狭い空間でも、高精細な3D画像を見ながら、より精密な動きで手術を行うことを可能にします。これにより、従来の手術方法に比べて傷が小さく、出血量や術後の痛みが軽減されるため、患者さんの身体的負担が大幅に軽減され、早期の社会復帰が期待できます。

このたび、当院ではロボット手術の対象疾患に「胃がん」と「腎・尿管がん」が加わり、計6つの疾患に対してロボット手術を行えるようになりました。

開腹手術・内視鏡手術に加え、ロボット手術という選択肢が増えたことにより、患者さん個々の病態に最適な手術を選択し、提案しています。



## ダヴィンチの動かし方

ダヴィンチでの手術は、医師が患者さんのすぐそばでメスを握る、というイメージとは少し違います。医師は手術台から少し離れた場所にある、「サージョンコンソール」という特別な席に座り、モニターを覗き込みながら操作して手術を行います。

### 手元には「コントローラー」 足元には「ペダル」

手元には、コントローラーが二つあります。これを動かすと、ダヴィンチのロボットアームが動きます。足元にはペダルがあり、これでカメラのズームを変えたり、電気メスを動かしたりします。

医師は座りながら操作できるため、長時間の手術でも疲労が軽減され、集中力の維持向上につながります。



## ココがすごい！ロボット手術

### 驚くほど繊細な動き！まるで職人の指先

ダヴィンチのロボットアームは、人間の手首よりもはるかに広い可動域を持ち、360度自由に動かすことができます。さらに、手ぶれを完全に補正してくれるため、どんなに複雑な場所でも、ミリ単位の正確さで手術を行うことが可能です。この精密さが、出血量の最小化、周囲組織へのダメージ軽減、そして患者さんの早期回復へと繋がります。

### 拡大された3D映像で、手術部位が目の前に！

ダヴィンチは、手術部位を最大10倍に拡大した高精細な3D映像で映し出します。これにより、医師はまるで手術部位の中にいるかのように、血管や神経、臓器の構造を立体的に、そして鮮明に確認しながら手術を進めることができます。肉眼では見えにくい細部までしっかり把握できるため、より安全で確実な手術につながります。繊細な操作が求められる手術において、この視覚情報は医師の大きな助けとなります。

## 疾患×ロボット手術

それぞれの疾患×ロボット手術について、関連する診療科に詳しく聞きました

### 前立腺がん／膀胱がん／腎・尿管がん

泌尿器科では、前立腺がんや膀胱がんに対して、「ダヴィンチ」を用いた低侵襲手術を積極的に行っています。2026年7月からは「腎・尿管がん」も対象に加われました。ロボット手術は、出血量の軽減、術後の痛みの少なさ、早期回復が期待できる点が大きな特徴です。当科では、ロボット手術の経験豊富な医師が中心となり、多くの症例を安全かつ効果的に実施しています。地域の皆さんに、質の高いがん治療を身近な医療機関で安心して受けていただけるよう、今後も診療体制の充実に努めてまいります。

泌尿器科部長 松川 宜久

### 大腸がん

直腸がんに対してロボット手術を積極的に導入しており、現在はほぼすべての直腸がん手術をロボットで行っています。2023年に導入以来、100例以上の実績を重ね、安全性と精度の高い治療を提供しています。ロボット手術は、骨盤内の深く狭い空間でも、神経や血管、周囲臓器を丁寧に温存しながら精密な手術を行うことができ、直腸がん非常に適した手術方法といえます。

外科統括部長 田口 泰郎

### 胃がん

2026年5月から胃がんに対するロボット手術を導入しました。ロボット手術により手術の精度を上げることで、合併症の軽減につながり、患者さんへのメリットも大きくなります。現状では比較的早期がんの方を対象とし、今後適応を拡大していく方針です。ロボット手術にご興味がある方は何なりとご相談ください。

外科部長 酒徳 弥生

### 子宮(良性筋腫)

産婦人科では旧病院の2022年に、知多半島で初めてロボット手術を婦人科に導入し、80例以上の経験を積んできました。現在では子宮筋腫など子宮の良性腫瘍のほとんどがロボット手術に移行しています。ロボット手術の特徴は1cm以下の小さな傷5カ所です。手術が済むことで、術後の痛みが少なく、早い回復を見込めます。一方で病気の状態によっては別の手術法が適する場合もあります。今後も患者さんそれぞれの状態に合わせ、最適な手術方法を提案してまいります。担当医までどうぞ気軽にお尋ねください。

産婦人科統括部長 諸井 博明



患者さんが「1日でも早く住み慣れたところに帰る」「1日でも長く住み慣れた場所で生活する」ことをともに叶えるため、患者さんのできることを最大限に引き出し、自立支援のお手伝いをしています



モットーは、患者さんと一緒にがんばる！

## リハビリテーション科

### 理学療法士は、身体の動きの専門家

「立つ、歩く、座る」といった基本的な動作を取り戻すお手伝いをします。患者さんの身体の状態を詳しく評価し、一人ひとりに合った運動やマッサージ、温めたり冷やしたりする物理療法などを行います。寝たきりにならないようにベッドの上でできる運動を指導したり、歩く練習をサポートしたり、杖や歩行器の選び方や使い方をアドバイスしたりもします。

### 作業療法士は、生活の「できる」を広げる専門家

「食事をする、着替える、お風呂に入る」など、日常生活の動作をスムーズにするお手伝いをします。単に身体を動かすだけでなく、患者さんの生活全体に目を向けます。例えば、箸が使いにくければ、持ちやすい自助具を提案したり、着替えが大変な方には、着やすい服の選び方や工夫をアドバイスしたりします。認知症の方には、記憶力を刺激するゲームや、安全に過ごせる環境づくりを提案することもあります。

### 言語聴覚士は、話す・聞く・食べるの専門家

「言葉話す、相手の言葉を理解する、安全に食事をする」といったコミュニケーションや摂食嚥下の機能を取り戻すお手伝いをします。患者さんの言葉や聞こえ、飲み込みの状態を詳しく評価し、それぞれの問題に合わせた訓練を行います。例えば、発音の練習をしたり、言葉を理解する力を高める訓練をしたり、安全に食べるための姿勢や方法を指導したりします。

それぞれ専門分野は異なりますが、患者さんが病気やケガ、加齢によって失われた機能を取り戻し、自分らしい生活を送れるように、チームで連携しながら患者さんの「できる」を増やすお手伝いをしています！



急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を配置。併設する訪問看護ステーションにも理学療法士、作業療法士がおり、入院後間もない急性期から退院した後の生活期まで幅広い病期の患者さんに様々な職種でリハビリテーションを提供しています。



6階のリハビリテーションセンターは、ガラス張りで明るく、中部国際空港に離発着する飛行機、伊勢湾や鈴鹿山脈が望めます。

2026年4月からは、2階にもリハビリテーションセンターを設けました。こちらは外来小児リハビリや、6階に空きがない場合に使用しています。

## ■朝礼・清掃

毎朝、全体朝礼とチームミーティングにて、患者さんのスケジュール確認や情報共有を行います。その後は、全員で清掃をします。清潔な環境で、患者さんもスタッフも気持ちよくリハビリテーションを行っています。



## ■教育・勉強会

当院の新人教育では、経験豊富な先輩スタッフが1年間専属でサポートし、チェック表に基づいて知識・技術・病院業務を丁寧に指導します。さらに、症例報告会に加えて、朝礼後に5～10分のショートスタディを実施し、日々の学びを積み重ねています。新人からベテランまで、スタッフ全員が常に知識と技術をアップデートし、患者さんへ質の高いリハビリテーションを提供できるよう努めています。

## ■大切にしていること

私たちは、住み慣れたご自宅へ安心して戻っていただけるよう、身体機能の向上だけでなく、退院前訪問や訪問リハビリによる環境調整にも力を入れています。生活動作や住環境を実際に確認し、患者さんが安全に、そしてその人らしく生活できるようサポートしています。また、より良いケアを提供するためには、スタッフ同士の連携が欠かせません。先輩・後輩といった垣根を越えて何でも相談し合える、風通しの良い職場づくりを心がけ、温かい笑顔が広がるチームを目指しています。



知多半島総合医療センター リハビリテーション技術科との合同懇親会。毎年恒例になってきました。

CHECK YouTube  
作成しています！

リハビリテーションセンターを  
紹介しています



新人の一日に  
密着しました！





## 新ドクターカー

## 始動

新しいドクターカーの車体デザインは、皆さんにより一層の愛着や親しみを持っていただけるよう、地域の方々とご支援者による投票を行いました。3つの案の中から、3,235票のうち1,618票を獲得したこちらのデザインに決定しました。

こちらは、先代ドクターカーのデザインを継承したものです。

緑は、知多半島総合医療機構のカラーであり、安心・安全を意味します。チェッカーフラッグは、最速の証であり、勝者を称えるという意味があります。



「患者さんを1秒でも早く安心と安全に導き、病院にたどり着くまでがんばった患者さんを誇りに称える。」

そんなドクターカーでありたいという想いを込めて考えました。

この新しいドクターカーを最大限に活用し、地域の皆さんの安心と安全を守るため、より一層尽力してまいります。

## お披露目会を開催しました

2026年6月6日（土）知多半島総合医療センターにて行った「新ドクターカーお披露目会」には、ご支援いただいた41名の方々に参加いただきました。

式典では、ご支援者を代表して、久野金属工業株式会社 代表取締役社長 久野 忠博様よりご挨拶をいただき、ユニーオイル株式会社 取締役 石川 宏之様からは理事長へドクターカーの鍵が贈呈されました。その後、渡邊理事長よりご支援いただいた代表者の皆さんへ感謝状が授与され、会場は温かい拍手に包まれました。プロジェクト実行責任者の太平副院長からは、新しいドクターカーの機能や、それが地域医療にもたらす効果について説明があり、最新の医療機器が搭載され、より迅速な救命処置が可能になることが紹介されました。最後に、岡田院長より閉式の挨拶があり、ご支援への感謝と、ドクターカーを最大限に活用し地域医療の発展に尽力していく決意が述べられました。

式典後には、新しいドクターカーが入場し、皆さんにお披露目。プロジェクトメンバー全員で直接感謝の気持ちを表しました。救急科の秋山医師からは、改めてご支援への御礼と車体デザインについて説明を行いました。

お披露目会の後には、ドクターカーの車両見学が行われ、車両の内部や搭載された医療機器について解説しました。また希望者には院内見学も実施され、病院の施設や医療現場の一部をご覧いただく機会となりました。皆さんのご支援が地域医療の発展に繋がり、多くの命を救う力となることを実感する一日となりました。

## より早く

ドクターカーが現場に到着するまでの時間は、一刻を争います。そこで活躍する



のが、AVM（Automatic Vehicle Monitoring）。ドクターカーに搭載されるのは全国的にも珍しいことです。

● **最適なルート**を瞬時に検索：渋滞などを考慮し、最も早く現場に到着できるルートを自動で案内。無駄な時間を削減し、一秒でも早く患者さんのもとへ駆けつけます。

## より安全に

救急現場での患者搬送は、安全かつ迅速さが求められます。

新しいドクターカーに搭載された電動ストレッチャーは、この課題を解決する上で大きな役割を果たします。

- **ボタン一つで高さ調整**：電動モーターで、ストレッチャーの高さや角度を自由に調整。さらに、患者さんを無理なく乗せ降ろしでき、体への負担を大幅に軽減します。
- **安定した搬送**：振動を吸収する機能で、走行中の揺れを抑え、患者さんに快適な搬送環境を提供します。
- **医療従事者の負担軽減**：重いストレッチャーを持ち上げる必要がなくなり、医療従事者は患者さんのケアに集中できます。

## より遠くまで

ドクターカーの車内は、現場に到着した瞬間から「動く集中治療室」となります。災害派遣医療チーム（DMAT）としてより遠く、より長時間にわたる活動にも対応できるよう、様々な工夫が凝らされています。

- **広々とした処置スペース**：ストレッチャーの位置を動かすことができ、より広い処置スペースを確保。複数の医療従事者が同時に効率的かつ安全に医療行為を行えます。
- **安定したシート**：走行中も医療従事者が安定して座れるシートを装備。長距離移動や緊急時でも、走行中の揺れによる負担を軽減し、医療従事者を支えます。

